

授業では自分から学ぶ姿勢、

家庭学習の習慣化も図られつつあります。



学校の特色を生かして、子どもが伸びる機会を多く提供したい。

小学校、中学校ともに、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」児童、生徒の割合が全国平均より高く、自主的に家庭学習に取り組もうとする意識が見られます。また、「毎日朝食を食べている」児童、生徒の割合が高く、各家庭において朝食を食べる習慣が確立されていることが伺えます。中学校においては、授業中の活動に対する肯定的回答は全国平均を上回っていることから、授業の中で主体的に学び、学力を高めようと努力していることが伺えます。また、目標の明示から振り返りまで行われている授業が多く展開されており、生徒が見通しをもって、自発的に学習できる授業づくりが進んでいることが分かります。また、平日、休日問わず、家庭学習を2時間以上している生徒の割合は全国平均よりも高く、家庭学習の習慣化も図られつつあります。

part 5

今後の取り組み

子どもたちの個性をのばし、まちの未来を担う人材を育てたい。

一 学校では

本調査の結果を受け、各学校では、個々の児童、生徒の実態と課題、学年全体の傾向と課題を分析し、日々の授業などで課題解決を図るよう取組を進めています。また、調査対象の学年だけの課題ではなく学校全体の課題であるところへ、全学年での実践につながっています。

- 「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた二層の授業改善を行います。
- 調査の分析を通して学習指導要領のねらいを具体的に把握し、それが達成できるような授業を展開します。
- 放課後等を利用した補充的な学習を二層進め、一人一人の課題に対応します。
- 家庭と連携して、学習習慣、基本的な生活習慣の定着および規範意識の醸成を図ります。
- 日常のさまざまな場面で、よさを認めたり、自分の成長に気づくような声かけをしたりして、自尊心や自己肯定感を高めめます。
- 保護者、地域と連携した児童、生徒の育成のあり方に

ついて、保護者、地域住民とともに協議を重ねます。

一 家庭では

各家庭では、引き続き、次に掲げる事項に取り組んでいきたいと考えています。

- 基本的な生活習慣を身に付けさせましょう。

- 規則正しい生活リズムにより、子どもたちが本来持っている力が発揮されやすくなります。
- また、気持ちのあいさつ、返事により、人間関係がよくなります。
- 夢や目標に向け、主体的に学習する習慣を身に付けさせましょう。
- 目標があると、それに向けた取組が主体的になります。
- また、主体的な学習により、学力が向上し、夢や目標が大きくなっていきます。
- バランスの良い食事、十分な睡眠、日常的な運動をさせましょう。
- 体ができあがっていくこの時期の食事、睡眠、運動はとても大切です。
- 日常生活の中で、社会のルールやマナーを身に付けさせましょう。
- ときには厳しく指導して

身に付けさせることも必要ですが、まずは、大人が子どもたちの手本となることが大切です。

- 子どもたちが自信を持てるような声かけを積極的に行いましょう。

- 日常の生活場面で、積極的に肯定的な評価をしておくことで、自尊心が高まり、自信につながります。
- そうすることが、夢や希望にもつながります。
- テレビやゲームの時間、携帯やスマホの使い方についてのルールを、子どもたちと話し合って決めましょう。
- 見たり使ったりする時間と学力との相関は、これまでの調査でも明らかです。それらに費やす時間を減らすとともに、家族と同じ場所で見たり使ったりする等のルールを、子ども達と話し合って決めておくことが大切です。
- 地域の行事に積極的に参加させ、郷土の自然、文化に出会わせましょう。
- 家族と一緒に、さまざまな行事に参加することで、豊かな自然、地域の文化、そして地域の人々と触れ合い、豊かな感性や地域を愛する心が育ちます。

隣保館だより

編集 下榎隣保館

〒689-4526 日野町下榎 157 番地 1

電話：72-1191 (FAX 兼)

E-mail：rinpokan@town.hino.tottori.jp



ザクザク…。掘れば掘るほどサツマイモが。笑い声のひびく楽しい収穫祭でした。

《榎の実学習会》
収穫祭 “大きなおイモがとれました”
10月17日、榎の実学習会で、春に植えたサツマイモの収穫をしました。
今年も昨年同様豊作で、大きなサツマイモに悪戦苦闘しながら、シャベルを片手に一生懸命掘り起こしていききました。
芋掘りの後は、お待ちかねのふかしイモの会食です。芋植えから収穫までお世話になった地域の皆さんに感謝しながら、おいしくいただきました。
そして、みんなに1個ずつ持ち帰ってもらったサツマイモは、それぞれの家庭でおいしく食べてもらえたとと思います。
毎年、芋植えの時にはマルチを張るなどの準備をしていただき、収穫の際は、芋のツルを刈り、いつでも掘れるようにと、たくさんの心配りをしていただいた地域の皆さんには感謝の言葉しかありません。本当にありがとうございました。

《研修参加報告》

「鳥取県隣保館連絡協議会 2017年度第2回職員研修」に参加して

下榎隣保館 西村千秋・西村さつみ

9月26日、倉吉市人権文化センターにおいて上記の研修会が開かれました。

研修では、「明日からのよりよい相談のために」と題し、長谷川理恵さん（保健師、精神保健福祉士、日本アドラー心理学認定カウンセラー、家族コンサルタント）による講演が行われました。

はじめに、長谷川さんは相談援助のための面接技術として、「よい相談」とは、またその理由について次のように解説しました。

「よい相談」とは…

- ①相談の場をつくる … 相手の立場を第一に考えた話しやすい雰囲気づくり（環境を整える）
- ②相談関係の樹立 … 相談者との関係性を大切にする（態度など視覚から入る情報）
- ③情報収集 … 話を最後まで丁寧に聴く（話の途中で自分の感情を入れない）
- ④見立て、支援の目標を決める … 支援の方向性により目的志向か原因志向かを使い分ける

また、「相談の内容を目的、原因と分けて考えることや、意見と事実を区別することが大事」と長谷川さん。加えて、「その上で相談者が考えたことなのか、感じたことなのか、相談者が見たり聞いたりして実在することなのかを聞き取りすることが相談理解につながり、的確な助言へと導いていく」と提言されました。

<研修を終えて>

同じものを見たり聞いたりしても、その人のとらえ方、見方、感じ方はそれぞれ違う。講師も言われたように完全な相談解決はなかなかできない。相互作用において相手の気持ちが少しでも和らぎ、目的（解決）に近づくことを一緒に考えていく。相談者が「話を聞いてもらってよかった」と思われるよう、気負うことなく今後役に立つよう活かしていきたいと思えます。

ただいま

参加者募集中!

第41回新春囲碁・将棋大会

日時：平成30年1月6日（土）午前9時開会

場所：日野町老人憩の家（下榎） 参加費：一人1,000円（弁当代込）

※参加申し込みなど詳しくは、下榎隣保館までお問い合わせください。皆さんの参加をお待ちしています！